

令和7年度 佃中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【国語】

【成果と課題】

- 前年度からの課題であった複雑な情報を処理し、論理的に考察する応用力を図る、思考力、判断力、表現力についての問題平均正答率において48.9%であり、前年度から向上している。
- 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとめを意識して文章の構成や展開を考えることができるかを問う問題の正答が69.8%であった。全国平均が63.3%であり、全国平均を大きく上回った。物語文における人物像を捉える記述力の高さは、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を正確に捉える力が確認された。
- 文章構成や展開表現の効果、根拠を明確にして記述する力の不足が課題である。

【数学】

【成果と課題】

- 数学の平均正答率は39%(15問中5.19問)であり、全国平均の48.3%(15問中7.2問)を下回る結果となった。数学に対する学習の定着度に課題がある。
- 基礎的な数理概念に関する高い定着度、基礎知識を問う分野で高い正答率が確認された。多角形外角の意味を理解していることを問う問題では、61.3%の正答率であり、全国平均の58.1%を上回っている。
- 反例を示す論理的な考察力が課題である。論理的な思考を深め、反例を推察する力が必要である。
- 基礎的な確率の理解に課題があり、基礎的な知識・技能の完全な定着に向け、指導の強化が必要である。

【理科】

【成果と課題】

- 佃中学校のIRTスコアの平均は454であり、平均正答数は2.5であった。
- 学力到達度を示すIRTバンドの分布において、佃中学校は、平均的な水準を示すバンド3の生徒の割合が42.5%と高い結果となっている。ただし、下位2つのバンド(バンド1とバンド2)の合計割合が45.6%に達しており、基礎基本的な知識の定着不足であることが課題である。
- 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身についているかどうかを問う問題の正答率は33.1%であり、全国平均の29.1%を上回り、学習指導要領の領域を超えた知識の活用において強みを持っている。
- 「エネルギー」を柱とする領域の「知識・技能」に関する設問での正答率が低い。生徒が回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を活用して結果を予想する能力に課題がある。

【今後に向けて】

【国語】

- 相手意識と表現の工夫を強化する指導を進める。
・「話すこと・聞くこと」の活動の充実、表現と効果の言語化訓練、具体的な助言作成練習、文章構造の分析と論理的な根拠記述の徹底
- 図章構造の分析と論理的な根拠記述の徹底
・構造的な読み解きの強化、根拠に基づいた考察の訓練、「書くこと」と「読むこと」の連携

【数学】

- 論理的な考察力と反例を提示する記述力を強化する。
・論理構造の深掘り指導、具体例を用いた検証の習慣化、記述による論証練習
- 確率の基礎概念の確実な定着
・確率用語と定義の再確認、事象の網羅的な分析、選択式問題の意図理解

【理科】

- エネルギー領域: 知識の応用と結果予測の強化
・電気回路の知識(直列・並列の抵抗や熱量の関係)を単に覚えるだけでなく、具体的な実験条件や仮説に当てはめて、結果(例: 電流の値など)を論理的に予測し選択する演習を強化。知識を実際の状況で「活用する力」の定着。
- 地球領域: 地層の構造と水の関連付け
・地層に関する既習の知識を関連付けながら、露頭の図などから情報を分析して解釈する練習を繰り返すことで、知識を活用して判断する能力の育成。